

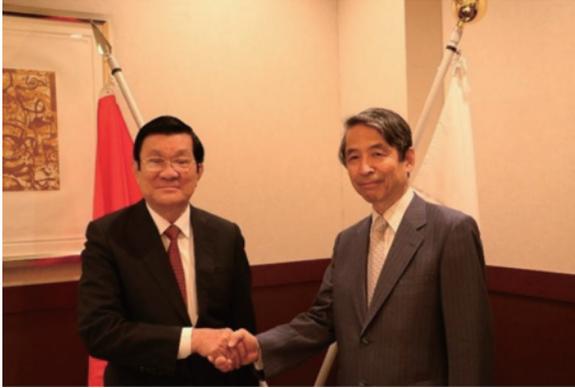
岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 14
2017. 6

TOPICS

1

ベトナム前国家主席らが榎野学長を表敬訪問 農学部視察も



ベトナム社会主義共和国のチュオン・タン・サン(Truong Tan Sang)前国家主席らが5月31日に来岡し、榎野学長を表敬訪問しました。

表敬訪問で榎野学長は、2007年4月に本学初の海外事務所をベトナム・フエ大学内に設置し、ベトナムとの学術・教育交流の推進に力を入れてきたことを説明。その成果として、本学のベトナム人留学生が近年著しく増加し、中国に次いで2番目に多いこと、特に博士後期課程への進学者が多く高度専門職業人・研究者の育成に貢献していることを紹介しました。サン前国家主席は「ベトナムのさらなる経済発展に向けて教育部門を重視している。中でも日本は重要なパートナーであり、ぜひ岡山大学でも幅広い学部で学生や若手研究者のさらなる受け入れを実現させてもらいたい。また農学分野や医療分野での今後のベトナムとの交流を期待したい」と話しました。

本学では、今後もベトナムと学術交流、人材育成等、さまざまな分野で連携を強化していきます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6734.html

岡山大学病院が 「外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)」の 認定を取得

TOPICS

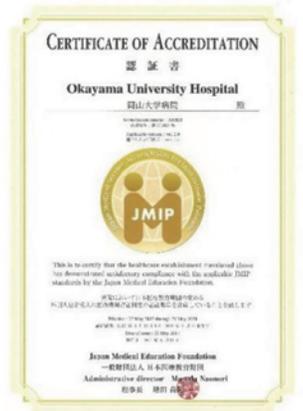
2

岡山大学病院は、一般財団法人日本医療教育財団による「外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)」を受審し、5月22日付けで認定されました。

JMIPは、外国人が安心・安全に医療サービスを受けられる体制が整備されているかを「受け入れ対応」「患者サービス」「医療提供の運営」「組織体制と管理」「改善に向けた取り組み」の5つの観点から評価するものです。国立大学附属病院では大阪大学医学部附属病院、九州大学病院に続いて全国で3番目、中国・四国地方では初の認証機関となりました。

審査は、病院の現況や自己評価などの書面調査のほか、病院職員との面接や院内訪問を同財団の認定調査員が行い、認証審査会で最終的な判断が下されました。

本院では今後も、国際診療支援センター職員が中心となって、医療現場での対応マニュアルや外国語会話集などのツール、院内表示などを見直し、外国人患者の受け入れ体制を整備していきます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6761.html

最近の大学の取り組み

グローバル・ディスカバリー・プログラム入試説明会を開催

本学は6月18日、「グローバル・ディスカバリー・プログラム入試説明会」を創立五十周年記念館で開催しました。岡山を中心に全国から高校生や保護者、高校教諭ら約130人が来場し、本プログラムの概要や入試方法について理解を深めました。

本プログラムは、世界各国から集まった留学生や帰国生らと国内の高校出身者が一緒に学ぶ新しい教育プログラムです。学部や学科の枠にとらわれない履修プログラムを学生自らが作成し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目指しています。今年10月には国際入試で選ばれた学生約30人が入学し、来年4月にはAO入試で選ばれた国内生約30人が加わる予定です。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6797.html

TOPICS
3

文部科学省 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」で 最高評価Sを獲得

本学などが採択されていた文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」について、同省は平成24～28年度事業が終了した取り組みに対して実施状況や成果などを検証し、6月20日、15大学の最終評価結果を公表しました。本学は総合評価で最高の「S評価」を獲得。また、委員会からの「改善を要する点等」のコメントも、他にS評価を受けた大学の中で一番少なく、本学の取り組みが高く評価されました。

同事業は、わが国の死因第一位であるがんに対して、5年間の事業期間の間に手術療法、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わるがん専門医療人を養成する大学の取り組みを支援するものです。本学は、「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」の名のもと、本学と愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、徳島文理大学、広島大学、山口大学でつくる10大学連合（連携拠点病院数は岡山大学病院を含む37病院）の代表を務めました。中国・四国地方の全域にわたる大学院、がんセンター、がん診療連携拠点病院が参加する多職種の高度がん専門医療人養成の教育プログラムを構築し、高度専門知識に加えて、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人を多数輩出することで、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化を実現し、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化に貢献しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6789.html



将棋部の羽仁さんが 将棋の学生名人戦で見事準優勝！

TOPICS
4

本学将棋部の羽仁豊さん（法学部3年生）が、5月27～28日に東京都内のホテルで開かれた将棋の「2017年度学生名人戦」（全日本学生将棋連盟主催）で準優勝に輝きました。

本大会には、各地区の大会を勝ち上がった学生アマの強豪32人が参加。トーナメント戦で熱い戦いを繰り広げました。羽仁さんは、本大会に初出場ながらも見事決勝に進出。最年少プロ棋士、藤井聡太四段との対戦で話題となった東京大学の藤岡隼太さんを相手に、惜しくも敗れて準優勝となりました。

羽仁さんは、3月に大阪府で開かれた「第20回学生将棋選手権大会」（日本将棋連盟主催）にも参加。小学生から大学生まで約450人によるトーナメント戦で、見事準優勝しています。また、9月には、羽仁さん率いる本学将棋部が、「富士通杯争奪大学対抗将棋大会」（全日本学生将棋連盟主催）に中四国代表として出場します。

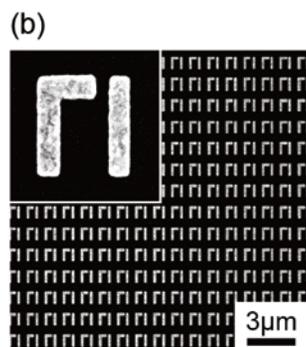
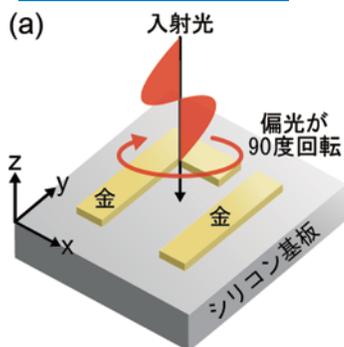
今回の結果を受け羽仁さんは、「3月の大会に続き準優勝だったので悔しい気持ちがある。9月の団体戦で優勝して雪辱を果たしたい」と闘志を燃やしています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6796.html



PRESS
RELEASE 1

赤外分光計測の飛躍的な感度向上に成功 -背景光を除去し、分子からの光信号のみを高いコントラストで検出-



岡山大学大学院自然科学研究科(工)の石川篤助教、鶴田健二教授らと、理化学研究所の田中拓男主任研究員(フォトン操作機能研究チームリーダー)の共同研究グループは、「非対称メタマテリアル」と呼ばれる人工光学材料を開発。その表面に吸着した有機分子を、数1,000個レベル(=zepto(10^{-21})モルレベル)の極めて高い感度で赤外分光計測できる技術を開発しました。本研究成果は6月9日、英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id473.html



PRESS
RELEASE 2

ラベンダーやパクチャーに含まれる精油成分に 放射線防護効果があることを解明

岡山大学中性子医療研究センターの小野俊朗教授、花房直志准教授らの研究グループは、古来より生薬や香料として広く用いられてきた精油の主成分であるモノテルペノイドの中に、放射線に対して防護効果を有するものがあることを明らかにしました。本研究成果は5月4日、ハンガリー国の国際雑誌「Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry」電子版に掲載されました。

本研究成果により、精油成分を用いた安全な放射線防護剤の開発と利用が進展することが期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id474.html

